



22 海野勝珉《牡丹折枝図印筆筒鏡板》一点

明治四十年（一九〇七）  
四分一・金・銀／象嵌・片切彫  
一一・二×一九・三×一八・八

23 香川勝廣《蛇籠千鳥形水滴》一点

明治四十年（一九〇七） 銀・四分一／高彫  
二・五×六・〇×一・四

両作品とも明治四十年に華族一同から献上された、桑木地飾棚の棚飾品として製作された。伊藤平左衛門による飾棚を含め、棚飾品全てが帝室技芸員による合作という点で貴重な作品である。東京美術学校依嘱製作品で、棚飾品の各意匠については岸光景と島田佳矣が図案を担当した。なお、当初から献上を目的としていたためか、両作品とも作者の銘は入れられていない。海野の作品は、同じ棚飾品に含まれる鈴木長吉（铸造）・中井敬所（篆刻）による《獅子鈕銅印》を収める印筆筒の鏡板で、牡丹折枝図を四分一の地板に片切彫などで表し、花を金と銀で象嵌している。堅実な仕上がりを見せており、海野の彫金技術の確かさをうかがうことができる。

香川は白山松哉の《松波詩絵硯箱》に収められる水滴を製作した。蛇籠とは、中に石を詰め粗く編んだ長円形の竹籠で、河川の護岸工事の際に土砂の防止や水流制御のために使用された。その形が大蛇の伏している姿に似ていることから名付けられた。香川は、前掲No.18《鳳凰高彫花盛器》のような大型作品も代表作とされるが、本作でも細かな細工に見せており、その技術は卓抜している。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の彫金―海野勝珉とその周辺

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 41

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年九月二十三日発行

© 2006, The Museum of the Imperial Collections